

2021 年 3 月 23 日

出雲国の空き家バンク様からのご質問への回答

上定 昭仁

1. 空き家バンクの現状と今後について

松江市が運営している「空き家バンク」への登録については、所有者からの申し出が前提となっていることに加えて、不動産業者との仲介契約の締結が条件となっており、登録のハードルが高い現状にある。

空き家の利活用に当たっては、まちづくりを担う側の行政から、空き家の所有者に対して、能動的に「空き家バンク」登録のメリットを伝達するとともに、仲介契約の締結における、より一層のサポートが求められる。

2. マイカーに依存する地域の交通アクセス面について

すでに市内一部地域で始まっている、電動カートによる買い物支援、外出・移動支援を参考にしながら、コミュニティバス、デマンドバス、カーシェアリング、タクシーの利用など、生活スタイルや地域性に合わせて、多様な交通手段を提供する必要がある。

現在運行されている市営バス、民間事業者運営バスの運行路線・ダイヤや相互接続などを確認したうえで、公共交通のあり方についても、改めて検討を進める必要があるものと認識している。

3. 中山間地域・里山地域の社会インフラの維持管理について

市内における社会インフラの多くは高度成長期や、昭和 57 年に開催されたくにびき国体に合わせて、集中的に整備されたものであり、今後老朽化に伴う改修・整備が必要になっている。

拙速なコンパクトシティ化は、周辺地域の荒廃を招き、地域全体の均衡ある発展を妨げる恐れがあることから、住民の意見を聞きながら慎重に検討していくべきと考える。

4. 自治会（町内会）の運営と行政との関わりについて

地域住民が自治会へ入会することで、地域における団結力が高まり、暮らしやすく安心・安全なまちづくりにつながるものと理解している。高齢化や核家族化、生活様式の多様化なども踏まえつつ、時代に合った自治会のあり方と入会の促進の仕方について検討がなされるべきである。

自治会は、あくまで地域における自主運営が基本であるものの、こうした点に鑑みて、必要に応じて、行政が他地域での成功事例を紹介するなどの支援や調整を行うことも念頭に置くのが得策と考える。

以 上